

2025年3月23日

「主に従う道」

ルカによる福音書 9:57-62

早川 真牧師

イエスに従おうとした人たちが言ったことはどれも悪いことではありません。しかし、イエスに従う道は、神の国を何物にも勝って優先する覚悟が必要であることをこの時イエスは示されました。このような覚悟は誰も持ち合わせてはいません。だからこそイエスが地上に来られる必要がありました。人間的な思いを退け、十字架にかかるまで神の思いに歩み抜くことができたのはただ一人、イエス・キリストのみです。この方を私たちは何よりも価値ある方として賛美し、感謝しています。

今朝の聖書の箇所において、イエスをご自分に従おうとする人たちに厳しい言葉をかけられました。それは、イエスに従うということは、今後の生き方を決定する、また今後の行く先を決定する重要な決断だからです。その道は苦難がない道ではありません。むしろ苦難の道であると言えます。それは十字架を背負い、命を捨ててくださったイエスの後に従う道だからです。しかしその道には二つのことが約束されています。一つは、神がその苦難の中から必ず助け出してくださるということ、そしてもう一つは、その道を歩み抜いた先にはもはや苦難のない、永遠に安住できる場所が備えられているということです。

私たちは地上に生きる限り苦難があり、また不安があります。しかし私たちは、自分の歩んでいる道がどのような道でどこに向かっているのかを知らされています。イエスは神の国を言い広めること、これが最も価値のあることであることを示されました。神の国とは神の愛が実現するところです。この神の国を目指して主に従う道を共に歩んでまいりたいと思います。